戦死者の墓

米本から出征し、第二次世界大戦中に亡くなった方の墓。
墓には「勇戦」との刻まれが見られている。

第一目標の中島飛行機から米本へのルート

爆弾を投下するB29

（東京都慰霊協会提供）

米本空襲と死者

日中戦争以降、米本地域では142名が出兵し、うち33名が戦死しました。この戦死者は村全体での葬儀が行われていたほか、一際目立つ立派な墓が建てられており、「英雄」として称えられています。

一方、米本空襲による11名の死者の葬儀は村全体でおこなわれず、戦後にひっそりとお墓が建てられたに過ぎません。

当時の風潮として、戦死の場合とは異なり、空襲で亡くなった場合は「名誉ある死」としては扱われなかったそうです。この「死の重さ」の違いは、戦死者の遺族には国から手当が出た一方で、空襲で亡くなった方の遺族には出なかったことにもつながります。戦死者の遺族はそのお金で立派な墓を建てたともいわれています。

なぜ、米本が？

当初米軍は、1945(昭和20)年2月19日に「中島飛行機武蔵製作所」へ爆撃することが目標でした。しかし、実際に爆撃されることはなく、第二目標である「周辺の市街地や工業地帯」が爆撃されます。実際ここの日は米本以外でも各所で空襲されたことが記録されており、例えば東京の多摩、千葉では船橋も空襲を受けています。

中島飛行機武蔵製作所が爆撃されなかった理由として、雲に覆われ視界不良になったことが挙げられます。第一目標の爆撃を断念した機体は13機が早期帰還し、そのうち8機が臨機目標（命令を受けた本来の軍事目標以外の場所を攻撃することに投弾しました。その臨機目標が米本だったのではないかと推測されます。

忘れ去られる空襲

2018年は戦後73年の年です。戦争体験者の話はもはや「普通に聞く」ことが困難になっており、いかにしてその体験を後世に残すのかということが大きな課題として挙げられます。

1987年に八千代市が発行した体験集『あの日から』は陸「記録」としての米本空襲は途切れています。また、地域でも徐々に米本空襲のことは語られなくなっており、戦争体験者がいなくなれば、「記憶」としての米本空襲も断絶してしまうでしょう。

「わずか11人」の犠牲者であった米本空襲。無計画に、無差別に行われたこの空襲は、詳細な記録を残していません。だからこそ、今、伝えていく必要があるのではないでしょうか。

米本空襲を考える

「戦争の早期解決」が東京大空襲の目的だったとすれば、米本空襲の目的は何だったのでしょうか。2月19日の空襲の目標地点には確かに「周辺の地域」が含まれていたものの、米本は第一目標の中島飛行場からは遠く、軍需工場や基地といった戦争における重要な拠点も存在しませんでした。

このように考えると、米本空襲は東京大空襲とはまた違った視点を持ちます。つまり、米本空襲は戦争の早期終結といった建前上の理由もなくおこなわれた空襲であったと考えられます。

では、その犠牲となった11人は、なぜ命を落とさなければならなかったのでしょうか。米本空襲は、戦争の理不尽さを、また別の角度から照らしています。

おわりに

米本空襲の特徴として、「記録に残っていない」ことが挙げられます。唯一の書籍である『あの日から』が発行されたのが1987年、それまでは人々の記憶を辿る以外で米本空襲を知る方法は、おそらくありませんでした。また、当時の写真も残されていません。そのため、戦時下の米本がどういった様子なのかを知るには、やはり当時を知る人の「記憶」が頼りとなります。

戦争を体験した世代がいなくなっていくこの時代だからこそ、米本空襲の体験を伝えていく必要があると考え、この展示を企画しました。一人でも多くの方に米本空襲のことを知っていただけたら幸いです。

最後になりますが、ご聞いただきまして、誠にありがとうございます。

全国戦没者の墓

全国の戦没者を祭る墓。
墓碑によって様々な刻まれ方があるように感じられ、どうなった。